

TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ豊
流
会

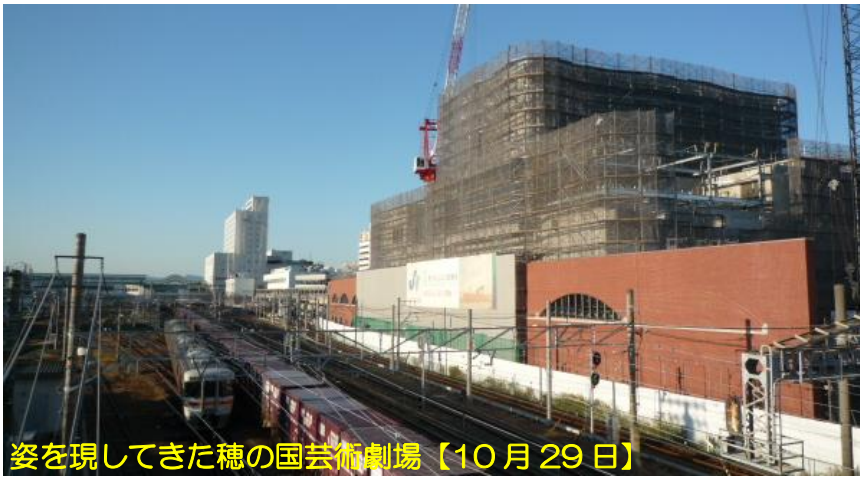
New

<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Autumn, 2012, vol.22

元気で明るいまちづくりにおける シティプロモーションの役割について



姿を現してきた穂の国芸術劇場【10月29日】

市長に次年度以降の政策を問う！

「ええじゃないか 豊橋！」

この言葉をつくり、ひろめたひとりとして、豊橋を元気で明るく、自慢したくなるようなまちにしますとまちづくりの政策をかかげた市長に、

**元気で明るいまちづくりにおけるシティプロモーションの役割について
安心して暮らせるまちづくりにおける市民病院の果たすべき役割に
ついて**うかがう！

(1) 首都圏プロモーション活動の拡大について

東三河・豊橋を豊かにするためには「もの」をつかって外に売りお金をもたらすか、来てもらってお金を落としてもらうかの2点に尽きる。そのためには「豊橋」の知名度をあげねばならない。マスコミを利用することも必要である。

「野菜」「手筒花火」も宣伝材料であり、イベントもしかり。しかし、確実に経済効果をもたらすことも求められている。

一方、産業の活性化、特に港湾の活性化は、本市の弱点の交通網整備に弾みをつけるし、港湾インフラを整えとともに雇用の拡大に直結する。それらの交渉は東京で行われている部分が多いと聞いている。

首都圏での「ええじゃないか豊橋応援倶楽部」による広がり、高齢化問題を抱える首都圏から豊橋への回帰や移住に繋がるかもしれない。

市長は2期目の政策で「首都圏プロモーション活動の拡大」を掲げているが...

(2) 中心市街地の魅力づくりについて

4年前のマニフェストでのまちづくりの約束は、40万都市に相応しい文化施設整備、駅前大通り再生計画、商店街の活性化サポートであった。

昨年12月議会では、『中心市街地を活性化するためには、目指す姿、ビジョンの実現に向けた市長の決断、リーダーシップが欠かせないが...』とうかがったところ『中心市街地が元気になることは、シティプロモーションとも連携する話、行政にとっても収益面等で大きな期待ができる。まちなかの賑わいに資する様々な活動をされているグループ、商店、豊橋まちづくり活性化センター等と同じ方向を向いて、リーダーシップをとって動いていきたい。』との答弁をいただいたが...

(3) のんほいパークの魅力発信について

のんほいパークこと豊橋総合動植物公園は本市最大のプロモーションの拠点であるが、その最重要課題は老朽化の課題である。昭和45年に豊橋公園から移転し42年が経過、そこには特に初年度より整備された西園など、老いた公共施設の姿があり、開園当初の施設は充分過ぎるほど更新時期を迎えている。今論ずべきは公共施設としての豊橋総合動植物公園ファシリティマネジメントである。つまりムダ、ムリ、ムラをなくし統合、再編、廃止することだが、およそ7億円を繰り入れている本園について、動植物園をやめたり、縮小につながる議論をするのではなく経営資源をバランスよくマネジメントし魅力を持たせるとともに長寿命化し、使命を果たさせることである。

それには、園内の良いところを引き出すことが大切。たとえば、公共動植物園の使命である「種の保存」については飼育交配の実績として目を見張るものがある。園と飼育員の努力の成果は近年の「マウ」で結実している。しかし他の数多い実績については宣伝不足ではなかったか。園内のムダ、ムリ、ムラをなくすためには古くなった大型遊具の撤去など、更なる絞り込みが必要ではないか。地震災害等へ備え改修すること、省エネなど環境へ配慮し日常のコストを下げること、飼育環境を改善し交配をすすめること、そして展示には他の動物園との差別化を図ること。動く物と書いて動物と言うが...

再質問 『首都圏活動センターの今後』『まちなか再開発の展望』『のんほいパークの再整備計画の考え方や見通し』などを踏まえてシティプロモーションに対する市長の思いと2期目での具体的な取り組みについてうかがう。

市長 市長就任以来、シティプロモーションを重要な政策の柱と位置付け、市民、事業者、各種団体、大学等と手を取り合い、本市の魅力積極的に地域内外に発信してきました。その結果、職員はもとより市民の中にも、「ええじゃないか豊橋」という合言葉に込められた思いが芽ぶきつつあるとともに、最近では全国ネットのテレビにも本市が多く取り上げられるなど、着実に成果が上がっていると感じています。2期目には、プロモーションをさらに拡大させ、「豊橋を認知していただく」から、「関心をもってもらう」、「選択してもらう」ことができるよう、本市の魅力発信に努めていきたい。その中心となるのが首都圏活動センターの活動であり、中心市街地や総合動植物公園の魅力づくりです。なかでも首都圏を中心に全国の多くの方に「豊橋」を知ってもらうために、首都圏活動センターはなくてはならないものだと考えています。具体的には、首都圏で多くの方に手筒花火の勇姿を肌で感じてもらう、美味しい豊橋の食材に舌鼓を打ってもらうことで豊橋のファンになってもらいたい。豊橋や東三河の魅力提供の一つとして、大規模マンション群での農産物販売を進めるなどしたい。

中心市街地では、プラットを核とする文化芸術の創造と発信に努めるほか、街区の老朽化や居住人口の減少という課題に対応するため、駅前大通南地区を魅力溢れる場所に、ほの国百貨店なども協力しながら、買い物や食事に訪れたい都市空間を作っていくと考えています。

広小路地区では、「ええじゃないか豊橋まちなかにぎわいチャレンジ」など、まちなかにぎわい復活に向けた取り組みを進めていく。

西駅地区については、豊橋・東三河の西の玄関口に相応しい場づくりについて、地元の皆様と一緒に取り組んでいきたい。

総合動植物公園については、広大な敷地を活用し、ゾウの群れ飼育をはじめとした動物の生息地環境や動物本来の行動特性を大切に展示を通して、動物たちの走る姿や泳ぐ姿に子どもたちが歓声をあげるような「ワクワク」した夢のある空間が提供できたらと考えている。これからの動物園は、希少野生動物の保全と繁殖を通じ、野生動物の調査研究や次世代を担う子どもたちへの環境教育の場としての役割も求められており、動物たちとの触れ合いの中で、「種の保存」の大切さと生命の素晴らしさを子どもたちに伝えていきたい。

いずれにいたしましても、地域の魅力を高めるためには、情報発信はもとより、そこに住む人々が自らの地域の魅力に気付き、誇りと自信を持つことが重要であり、先頭に立ってシティプロモーションを積極的に進め、豊橋だけでなく東三河地域全体の魅力向上、ひいては地域力の強化に努めていきたいと考えている。

まとめ 日本全体の人口が減るなかで、地方自治のなかの地域マネジメントがテーマ、シティプロモーションについては一層積極的に進め、豊橋だけでなく東三河地域全体の魅力向上、地域力の強化に先頭に立つのご答弁でしたが、私自身もこれまで以上に地域の魅力を発見し、誇りと自信につながるような政策提案をしていきたい...



安心して暮らせるまちづくりにおける 市民病院の果たすべき役割について

質問 近年、豊橋市民病院をはじめとする公立病院の課題は、地域における基幹的な医療機関として、地域医療確保の重要な役割を担っているにもかかわらず、損益収支をはじめとする経営状況の悪化や、医師不足に伴う診療体制の縮小など、経営環境や医療提供体制の維持について困難な状況としていたが、例えば本市では「豊橋市民病院改革プラン」を推進することで、損益収支が平成22年度決算では黒字に転換するなど大きな成果を収めてきた。

しかし『3.11』以降、従来の病院経営改善に加えて公立病院のなかでも豊橋市民病院のように、救命救急センターなどを設置するとともに、高度・特殊医療を提供する地域の基幹病院は災害発生時における事業継続性を喫緊かつ最大の課題としており、本市市民病院では本年度予算にて事業継続計画（BCP）の策定中である。

この件については、BCPとともに事業継続マネジメント（BCM）を同時に作成すべきであることは既に予算の段階で議論をさせていただいたが、東三河の基幹病院であることから視野を更に広げた広域における地域医療継続計画（MCP）や、損益収支を課題とする企業経営であることから施設マネジメント・公共ファシリティマネジメントの視点は欠くことができない。

さらに今注目すべき視点は、「日常と非日常」である。被災時を想定した事業継続性への対応策は病院にとって最重要課題のひとつであるが、それに費やされる初期投資や日常の維持点検、訓練体制など、多大な負担がかかる。むしろ日常的に稼働している設備や体制を強化しておき、大規模な災害に見舞われた場合でもスムーズな運用に移行できることが望まれているのではないかと。

また、小立地条件においては液状化地域に立地することから設備への耐震化や、立地的に脆弱である電気、ガス、上下水道などのライフラインについて、『3.11』の知見を活かさねばならない課題も多い。

さらに施設マネジメントの危機管理においては地震のみにとどまらず豪雨、停電などへの災害対策や、環境への配慮を基にした省エネルギー化とコストの削減、たとえばエネルギー循環システムの一層の高効率化や近年注目を集めている設備への更新、技術の進歩した太陽光発電などの積極的導入、断熱材の見直しなど、日常的に稼働している設備や体制の強化について着手すべき点は数多い。

豊橋市民病院は津波避難ビルにも指定されており、地域における災害時の拠点機能や、地域コミュニティとの連携も求められていることとおもう。

また**市長2期目の政策**では市民病院総合出産センターの整備を進めるとしているが、他にも地域がん診療連携拠点病院であることをはじめ23の指定医療機関である。

たとえば本日2次救急病院新成田記念病院はがん治療における先進医療機に、トモセラピー、PET CT、セリューションシステムを導入した。

東三河における3次救急基幹病院として、【光生会病院、豊橋医療センター、豊橋ハートセンター、弥生病院、豊川市民病院、青山病院、蒲郡市民病院、渥美病院など】他の東三河の2次救急9病院とは異なる、更新期を迎えている医療機器の刷新も含め、地域の医療水準を見極めながら先進医療を特徴づけるあらたな先進医療サービスの提供は病院経営にも市民サービスにも大いに資するものである。

そこで、以下についてうかがう。

- (1) 市民病院の現状と課題について
- (2) 病院施設ファシリティマネジメント、BCP（事業継続計画）、BCM（事業継続マネジメント）、MCP（医療継続計画）導入への認識と対応について
- (3) 先進医療に対する認識と対応について東三河県庁を含めた東三河の観光連携について、どのように認識し、対応しようとしているのかについて

1回目質問では現状の認識を質し、部長答弁を踏まえて市長へ再質問…

【詳しくはインターネットのオンデマンド放送、もしくは議事録をご確認下さい】
<http://www.toyohashi-city.stream.jfif.co.jp/> 豊橋市議会インターネット映像中継より録画中継を選択し、議員名を選んでご覧ください！

再質問 今、新しい病院に求められているのは「いつでもどんな時でも地域の医療を守り続ける病院」「地域の医療活動の拠点となり、地域の中核施設として発展をもたらす病院」といわれている。

また「東三河広域連合の実現」では東三河の広域医療継続計画の視点も見据えていることと思う。

そして何より市長は一期目の挑戦の際には豊橋市民病院を日本一の病院にしたいと熱く訴えていた。市長は市民病院を安心の拠点を据えながら、どのような安心安全なまちづくりをすすめていこうとしているのか考えをうかがう。

市長 私は「東三河観光基本計画」というようなマスタープランが必要だと考えて私は、市長就任時に「豊橋市民病院を日本一の病院にしたい」との思いから、市民病院改革プランを策定し、病院事業全般にわたり様々な改革に挑戦してまいりました。

医師、看護師等医療スタッフの増員による診療体制の整備、電子カルテ導入による医療安全の推進と一患者一カルテの実現、安心して子どもを産み育てられる環境整備としての周産期医療の充実、患者総合支援センターの開設による病診連携の推進など、診療体制の整備、充実に努めてまいりました。

その結果、医師不足の中での医師の増員や7対1看護体制の整備による看護の質の向上、そして総合周産期母子医療センター、バースセンターの平成26年度開設を目指しての病棟改修工事着手など、医療機能の向上が目に見える成果となって現われてきております。

また、平成8年の新築移転以来の赤字経営を脱却し、経営の健全化にも道筋をつけることができました。

豊橋市民病院は、地域医療を支える東三河の基幹病院として、人材、医療設備、医療水準等すべての面で、この地域のトップレベルを維持することが必要であります。このことが豊橋市民のみならず、東三河の皆さんへ安心できる医療を提供することになります。

とりわけ、先端医療の導入については、東三河の医療を完結する最終病院として、地域医療を守る責務を果たす重要な取り組みと考えております。

白血病治療としての骨髄移植が可能となる高度無菌室は、来年度中にも整備する計画であり、日本人の死亡原因第1位であるがん治療においては、高度な放射線治療機器の導入に向け、大学医局も含め検討をしているところであります。

また、災害時における安心安全のためには医療関係者をチームとして医療の継続を図る医療コーディネーターの設置など検討に入っております。また、先ほど議員よりご提案のあった災害に備えた施設の見直しなどを進めていきます。

こうした取り組みにより、地域の皆様が安心して治療を受けられる市民病院をつくるのが私の務め（願い）であり、安全安心なまちづくりにも大きく貢献できるものと考えております。

おもい 市民病院の果たすべき役割は、経営改革の推進とともに、東三河の医療を完結する最終病院として、地域医療を守ることで豊橋市民病院を日本一の病院にしていく改革を挑戦しつつけるとのご答弁でした。たしかに市長の仰るとおり市民病院の努力については私も認めるところであります。

そして、先端医療について、白血病治療としての骨髄移植が可能となる高度無菌室、がん治療における放射線治療機器とは「陽子線治療装置」でしょうか、待ち焦がれている市民も多く、厳しい闘病生活を強いられながらも、今回の政策を耳にして多くの笑顔が浮かぶことでしょう。

まとめ 市長から直接、いままでおぼろげであったビジョンを明確にする政治的判断を答弁いただきました。

第5次総合計画の基本理念は「ともに生き、ともにつくる」ですが、この地でともに生き、ともにつくるため汗をかく市民として、市民の代表として、市長と相互に均衡と抑制の関係を保ちながら、将来都市像「輝き支えあう水と緑のまち・豊橋」の実現を大いに期待して私の全ての質問を終わります。

“豊流会便り” & 編集後記
国際社会の中の日本。一家の生活が世界と繋がる時代。
この言葉が、毎日私の頭を反芻します。
『独立自尊』自分自身お足で立つとともに、誇りを失わない。
『共生他尊』他の人や考えを認めるとともに尊び、ともに生きる。
決して『唯我独尊』にならぬこと！

伊藤とくや市政報告会の御案内
松葉町カオニビルにて
11月20日（火）19時より
市政報告会を開催します。是非お越し下さい
また出張報告会大歓迎です。ご連絡下さい。

発行
伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町 3-68
FAX : 0532-56-5521
bbito@mx1.tees.ne.jp
携帯 : 090-3855-9696